


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 10 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	大川卓也

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
鹿児島県、屋久島	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
ヤクシカの個体追跡および糞からの DNA サンプリングの実現可能性	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 26 年 5 月 23 日 ~ 平成 26 年 5 月 29 日 (7日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学 PWS 屋久島ハウス	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
鹿児島県の屋久島、永田の京都大学の施設に拠点を構えて、サル、シカ、昆虫、キノコの四グループに別れて各班それぞれの対象生物に合わせた研究活動を行った。 シカ班では杉浦様、揚妻様、芳美様ご指導のもとシカの個体追跡および糞採集をし、糞から DNA サンプリングするというローテーションを日々こなした。これら研究活動の結果は6月9日に開催された PWS 国際シンポジウムでゲノム実習の内容と組み合わせてポスターとして発表した。 また、講師の方々が観光や BBQ、ウミガメの産卵見学など色々な催し物を企画してくださり、研究活動以外においても非常に濃い時間をすごさせていただいた。 最終日の火山噴火を含めて自然の雄大さに圧倒されるばかりの屋久島実習での数々の経験は、今後の自分の研究活動においてとても実りのあるものであったと感じている。	
	
写真1 ヤクシカ	写真2 ヤクザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真3 シカの糞の表面を削り、DNAを採集



写真4 口永良部島噴火



写真5 集合写真

6. その他 (特記事項など)

今回の屋久島での実習において、特にご指導していただいた杉浦様、揚妻様、芳美様、そして PWS スタッフの方々には厚く御礼申し上げます。